

士別軌道株式会社
代表取締役 井口 裕史

令和7年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）乗合路線の経常収支について

標記について、別添の通りまとまりましたので、地域公共交通機関として公表申し上げます。

1. 経常収益

・昨年10月1日からの運賃改定（全路線5割引上、1路線2.1倍）でこの6か月間の運賃収入は、約3割増加致しました。人口減少、減便の影響で約5割の引上げに対して、3割の効果に留まっております。前年度比でみると12%強の増収です。

2. 経常費用・・・士別市で全17路線を運行するのに年間1.4億円以上の経常費用がかかります。

・経常費用で大きく改善したのは朝日線で、前年度比で見ると6.3百万円のコストが削減できました。これは、土曜日運行の減便と、日曜日、祝日の全便運休、最終便のデマンド化による収支改善策の結果です。

3. 経常収支・・・経常収支は87百万以上のマイナスです。

・運賃改定効果と減便効果で、全路線で前年度比8.3百万円赤字額が削減できました。しかしながら、依然として87百万円強の経常損失を抱えており、引続き厳しい収支状況にあります。

4. 今後の収支改善策について

- ・朝日線は生活路線として、これ以上の減便は当面考えておりません。しかしながら朝日地区の人口減少が今後も進むと思われ、各運行便の乗車状況が著しく減少すれば、収支改善のためさらなる減便も将来ありえます。
- ・市内外回り線は、令和7年10月から平日△13.6%、土・日・祝日△17.6%の減便を実施、冬季期間（11～12月）に比べ夏期間（4～10月）の利用が約4割程度減少することから、次年度夏期間運行は、2～3割減便し収支改善を図る予定です。本年度に入っても年度比△2割程度利用が減っており、減便数をさらに拡大する可能性もあります。
- ・郊外線、スクール線は士別市から委託を受け、運行補助金、委託料をいただいて運行しており、今後については士別市と協議のうえ、再編等検討していきます。

5. 乗合路線の全体的な収支

- ・総じて、全路線の経常損失約87百万円に対し、運行委託料、補助金をいただいても約38百万円の経常損失が残ります。これを貸切バスの経常利益と主に士別市などからの委託業務収入で穴埋めし、どうか経営全体の収支を保っております。
- ・これからも士別市の人口は加速度的に減少していきます。街の規模に合わせて徐々に経営を縮小していくしかないかと考えております。
- ・市民の皆さまには、主要路線の減便でご不便をおかけしておりますが、当社が生き残るために、多額の赤字がでている路線の収支改善は必要なこととあります。どうぞご理解をいただき、乗合路線、特に市内外回り線のさらなるご利用をお願いしたいと思っております。

以上

令和6・7年度路線別経常収支増減

単位:円	令和6年度			令和7年度			増減		
	経常収益	経常費用	経常収支	経常収益	経常費用	経常収支	経常収益	経常費用	経常収支
市内外回り線	11,158,899	27,315,574	△ 16,156,675	13,479,464	28,080,978	△ 14,601,514	2,320,565	765,404	1,555,161
朝日線	10,030,065	30,817,512	△ 20,787,447	11,294,268	24,468,292	△ 13,174,024	1,264,203	△ 6,349,220	7,613,423
郊外7路線	2,758,830	45,975,160	△ 43,216,330	4,171,518	49,018,093	△ 44,846,575	1,412,688	3,042,933	△ 1,630,245
スクール5路線	27,164,220	37,309,545	△ 10,145,325	28,726,834	41,579,957	△ 12,853,123	1,562,614	4,270,412	△ 2,707,798
その他3路線	1,813,395	7,377,700	△ 5,564,305	1,806,441	3,834,442	△ 2,028,001	△ 6,954	△ 3,543,258	3,536,304
計	52,925,409	148,795,491	△ 95,870,082	59,478,525	146,981,762	△ 87,503,237	6,553,116	△ 1,813,729	8,366,845

令和6・7年度路線利用者増減

単位:人	令和6年度			令和7年度			増減		
	有料乗車数	委託乗車数	計	有料乗車数	委託乗車数	計	有料乗車数	委託乗車数	計
市内外回り線	65,773		65,773	62,605		62,605	△ 3,168	0	△ 3,168
朝日線	16,029		16,029	16,335		16,335	306	0	306
郊外7路線	3,737	2,382	6,119	3,117	2,404	5,521	△ 620	22	△ 598
スクール5路線	2,668	13,882	16,550	2,379	14,505	16,884	△ 289	623	334
その他3路線	6,247		6,247	3,497		3,497	△ 2,750	0	△ 2,750
計	94,454	16,264	110,718	87,933	16,909	104,842	△ 6,521	645	△ 5,876

1. 経常収支の動向と要因、主要2路線の今後について

- ・昨年10月1日からの乗合バス運賃改定(一律5割、1路線2.1倍)による増収。改定後、6か月で3割程度運賃収入が増加。運賃改定効果は利用者減少により約3割に留まる。
- ・市内外回り線は、上記運賃改定より、1,555千円の経常収支改善となった。市内外回り線は、冬期間(11~3月)に対して夏期間(4~10月)の利用が4割程度落ちることから次年度は夏期間の運行を2~3割程度減便し、さらに収支改善を図る予定。本年度の利用状況をみて決める考え。
- ・朝日線は、運賃改定と土・日・祝日の減便により運行コストが大幅に改善し、7,613千円の経常収支改善となった。生活路線として維持するため朝日線のさらなる減便予定は当面はない。

2. 運行委託料、補助金について・・・市内外回り線は令和5~7年度、従来の運行補助金1百万円に対し、3年間限定で土別市より4百万円上乗せの補助金をいただいた。

- ・市内外回り線は令和8年度より年間1百万円の運行補助金。朝日線の運行補助金はない。この2路線の経常赤字 △28百万円程度を当社が負担。
- ・郊外7路線、スクール5路線は市の委託を受けて運行、その運行補助、委託料は赤字額の8.5割程度。
- ・その他3路線のうち、わくわく買い物線で年間1百万円程度の運行補助金があり、△1百万円程度を当社が負担。
- ・総じて、全路線の経常赤字 △87百万円に対し、運行委託料、補助金は5.8割程度で、△37百万円程度の赤字を当社が補填。主な補填財源は、貸切バス利益や主に市からの委託業務収入。

3. 利用者の動向について

- ・市内外回り線・・・人口減少と減便の影響 ・朝日線・・・定期券利用増でやや増加 ・郊外7路線・・・有料は人口減少、委託は日向線の増加
- ・スクール5路線・・・有料は人口減少、委託はスクール線利用児童の増加 ・その他3路線・・・主にわくわく買い物線大幅減便による

以上、2年比較で約△5%前後の利用者減となっている。10年前には20万人以上いた有料利用者が、現在半分に落ち込んでいる。ここ数年の大きな影響として、令和1年度の敬老バス有料化、さらに令和2~4年度のコロナ禍で大幅に減少、コロナ後も回復せず減少にある。背景には、人口減少、収支改善のための朝日線、市内外回り線の減便、コロナにより生活様式が変化し、乗り控えが増えたことも考えられる。本年度も、特に市内外回り線の利用が△2割程落ちており、今後もこの傾向は続くともみている。